

■地区復興まちづくり計画（素案）内覧会等の報告

（1）内覧会の概況

- ・日 時：1月21日～24日
- ・場 所：鉾ヶ崎小学校仮設住宅談話室
- ・来場者数：82名

●会場の様子



（2）内覧会での意見等

■内覧会での意見

1	私は、震災前は蛸の浜に居住しておりましたが現在いる仮設住宅が西ヶ丘地区にありまして、できれば西ヶ丘方面にも公営住宅を建設して頂きたいと思っております。 (男性)
---	---

■第3回検討会への意見

1	大枠のイメージとしては検討会の意見を反映して良く出来上がっていると感じました。私の提案した津波の記憶を風化させないための記念碑、犠牲になった方々の慰霊碑の建立を取り上げて頂き有難う御座いました。場所は臼木山の展望台あたりが適当と思います。 次の世代の町づくりをするのであるから若い世代の意見も欲しい所ですが、この際特色のある町づくりをして家の色、屋根の色など統一して鉾ヶ崎を風情のある町並みにして話題を提供し、観光の一役を担ってはいかががでしょうか。(イタリアの古い都市では新築でも同じカラーで作られている) 要望として、高台の宅地造成のスピードアップを図り、居住可能となるようお願いします。 (検討会メンバー)
2	復旧、復興に向けての検討会、鉾ヶ崎地区の再生、発展のために何とか役に立ちたいと思いながらの参加ですが、今さらながら被害の大きさに気持ちが落ち着きません。それでも、これを良い機会と捉え、良い町が作れたら、後々の人達の為になるかと考えています。漁業のまち鉾ヶ崎は魚と観光を中心に考え魚市場それに関係する事業所をまず第一に設置し、商店街と住居がバランスよく配置される事が大事で、狭い地域、ゆえに土地配合に困難が予想されます。希望者の要望通りに応じられるようお願いしております。 (検討会メンバー)

3 1. 水産業を中心とした活気あるまち

漁民あつての水産業であり、鯉ヶ崎街である。震災を乗り越え再び水産業に従事しよう。また、若者が水産に情熱を燃やす環境は如何にあるべきか。高齢者も若者も、個人では土地も家ももてる余裕はないと思う。公営の漁民向けの土地区画、作業場つき住宅が必要である。

2. 観光による活性化

盛漁期に合わせた魚市場観光の施設をつくる。出先埠頭から街を経て浄土ヶ浜への道を（車いすも通行可能な）整備する。清水川沿いは、両岸に堤防を設け、子供も遊べる公園にする。改めて別な箇所に公園は必要ないと思う。

3. 安全で安心して暮らせるまちづくり

漁民の住まいは、作業場や船あげ場の近くが作業も管理しやすい。居ながらに海の様子がわかり、自分の船も見える。防潮堤の内側に、公設漁民住宅（仮称）を、防潮堤高さ以上の階に造り、その下部は入居者の作業場とする。また、民宿経営を兼業とする人、遊漁船営業をする人等の区画施設についても考える。日立浜、山根町、港町、蛸の浜町の一帯は、1区画 60～70坪の漁業家用の立地とし、上町、仲町は水産加工団地として、利用希望者を広く他県からも募る。

4. 自然や健康づくりが楽しめるまち

蛸の浜、浄土ヶ浜、臼木山など健康づくりやお楽しみ場所は十分あるので、改めて公園用地はいらない。下水道を完備し、清水川沿いを公園化すればいい。

5. 老人も子供も住みたいと思うまち

清水川沿いを子供や高齢者が集まって楽しめるようにする。清水川と仲町にある川は大火を防ぐ防火帯にする。見晴しのいい小高い所に公衆浴場があり、街には日用品や駄菓子屋、食料品店があればいい。徒歩で買い物、必要なものがそろうまちにする。商店街は街の中心部に置く方がいい。外来船船員の癒しなどにも配慮したまちづくりがほしい。

6. その他

「鉄筋コンクリート造りの商業業務ビル」とか「津波避難ビル」とか漁民の街には合わないイメージである。「漁民ビル」が漁業の町にふさわしい。復興のシンボルに「漁業ビル」を考えたらどうですか。

また、磯漁業小型船の荷揚げ岸壁が大型船の荷揚げ場と共有することは危険がある。岸壁の高低差による荷揚げ作業の難しさや接触事故等である。磯浜小型船の岸壁、集荷市場を設けること。大型船魚市場の狭隘の解消にもつながります。漁業活性化のために養殖漁業、魚場の充実と合わせて、漁民、水産課とともに話し合うことが大事である。（男性 検討会傍聴者）